



パキスタン

46 ダウドケル肥料工場 近代化事業(1)(2)

イスラマバードの南西約150kmにあるバックアメリカン肥料公社ダウドケル工場の老朽化した設備を更新することにより、肥料生産の増加を図り、もって同国の農業生産性の向上に寄与する。

承諾額/実行額 237億500万円／234億4,300万円
借款契約調印 1989年3月、1994年11月
借款契約条件 金利2.5% (1)／2.6% (2)、返済30年(うち据置10年)、部分アンタイド(1)／一般アンタイド(2)
貸付完了 2000年8月、2001年8月



外部評価者 南村亜矢子（アイ・シー・ネット(株)）
 現地調査 2003年8月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに老朽化した設備の更新等がなされた。期間は、パキスタン政府による承認手続きの遅延および湾岸戦争の影響によって事業開始が遅れたことや、仕様変更等による調達手続きの長期化により、計画を大幅に上回ったが、事業費はほぼ計画通りであった。本事業によって、2001年度の年間肥料生産量は約47万トンとなり、計画値の約90%を達成している。また、1998年度(本事業完成年度)から01年度にかけて増加した生産量約27万トンは、同期間の国内肥料生産量増加分の約80%を占めた。同期間中、国内施肥量が増加し、小麦およびサウキビの単位収穫量がそれぞれ6%、11%増大するなど、就労者の約5割を占めるパキスタン農業セクターの生産性向上に一定の貢献をしている。さらに、事業完成後の尿素肥料の輸入量がゼロとなったことから、輸入代

替による外貨節約効果(01年度分の試算で約3,700万ドル、約41億円)を生んだほか、生産設備の近代化により、工場からの硫黄酸化物およびアンモニア流出量の減少によって、環境改善にも貢献した。実施機関であるバックアメリカン肥料公社の技術、体制、財務面については問題はない。ただし、原料である国内天然ガス価格が高い一方で、肥料販売価格が抑制されているため、収益性の改善が求められる。

第三者意見

本事業による肥料の増産は、施肥量の増加を通じて農業生産性を向上させ、農民の所得向上に貢献した。天然ガスの供給制約が解消すれば、一層の増産が可能となる。

有識者 Mr. Zafar Mueen Nasar

カンザス州立大学博士課程修了(経済学)。現在パキスタン経済開発学院主席研究員。専門はマクロ経済、国際貿易など。

パキスタンの肥料セクターの概要

肥料会社の概要

2003年8月現在、パキスタンには主に4企業グループの系列肥料会社が存在する。

会社名	企業グループ名(略称)	生産肥料
ダウッド・ハーキュラス会社	D.H.	尿素
リヤプルーケミカル公社	NFC	過リン酸肥料
ハザラリン酸肥料会社	NFC	過リン酸肥料
バックアメリカン肥料公社(本事業)	NFC	尿素
バックアラブ肥料公社	NFC	尿素、複合肥料、石灰窒素
ファウジ肥料会社	FFC	尿素
アングロ化学会社	ENGRO	尿素
バックサウジ会社	FFC	尿素
ファウジ肥料会社ジョルダン	FFC	二燐安、尿素

出所: "Pakistan Fertilizer Related Statistics" National Fertilizer Development Center, 2002.

尿素肥料セクターの概要

2003年度での尿素肥料セクターのシェアは、FFCが62%で国内No.1のシェアを占めている。次いで、ENGROの20%、NFCとD.H.の9%である。

